

司書課程・司書教諭課程行事報告

まずはGWに入ったばかりの2009年4月29日（水曜日／祝日）の午後に、図書館ガイダンス&ホームカミングデーを開催した。本年から、卒業生の方たちに講師にならなくても気軽に母校に寄っていただきたいという気持ちをこめて、「ホームカミングデー」をあわせて冠することとした。まず尋真館地下1階1番教室で全体会を行った後、尋真館地下1階の各教室にて分科会を行い、最後に改めてまとめの全体会を持った。約90名の学生が出席した。各分科会の講師をお引き受けくださった卒業生は、次のとおりであった。例年講師に手を上げてくださる方から、今年は〇〇さんにもお願いしてみてください、と別の方をご紹介いただけたりして、顔ぶれが毎年少しずつ異なるようになってきているのが楽しい。講師の皆さま、今年もありがとうございました。

公共図書館グループ：西尾恵一氏（大阪府立中央図書館）；竹内洋介氏（富山県立図書館）；徳森耕太郎氏（大阪府立中央図書館）；川嶋智美氏（安土町立図書館）；前田笑氏（東近江市立八日市図書館）

大学図書館グループ：中村健氏（大阪市立大学学術情報総合センター）；大塚志乃氏（大阪大学附属図書館）

学校図書館グループ：佐藤敬子氏（甲南高等学校・中学校図書館）；香西瑠衣氏（京都府立西舞鶴高等学校）

専門図書館グループ：高木睦子氏（大阪府立特許情報センター）；田中千晴氏（滋賀県立視覚障害者センター）

国立国会図書館グループ：奥野諒子氏（国立国会図書館本館）；宇治郷毅氏（元国立国会図書館副館長）

大学院進学グループ：瀬戸口誠氏（梅花女子大学文化表現学部情報メディア学科講師）

この終了後に、ホームカミングデーのプログラムとして、伊藤昭治氏から「実際に役立つ図書館学とはどういうものか」、千歳則雄氏から「図書館現場で思うこと、考えること」と題したお話を30分ずつしていただいた。学生だけでなく卒業生の間でも、とても考えさせられるところがあったと好評で

あった。来年度以降もホームカミングデーは継続しようということになった。

7月6日(月曜日)には、延世大学校文科大学文献情報学科の文聖彬先生をお迎えして、公開講演会を実施した。文先生との出会いは、前年の冬に筑波大学で開かれたA-LIEPで、その懇親会の席で、年長の韓国の先生であるのに、とても気楽な会話をしてしまい、しかしその楽しかったことが忘れられなかったので、2009年度を慶應義塾大学で過ごされるとうかがって、早速、京都にいらしてくださいとお願いしたのであった。この講演会の記録は、〈特別講演会〉として、本誌に収載したが、講演会では、最後に延世大学校の新しい図書館の紹介ビデオを同図書館のウェブページからクリックして見せてくださって、その先進的な様子が私にはかなり衝撃的だった。その後しばらく、学内の色々な方たちに、見てみて!と紹介して歩いたほどであった。

夏休みの終わりには、4名の学生が宇治郷先生と中村の引率で、東京地区図書館見学会に参加した。今年は不況の影響もあってか参加者が少なかったのが残念ではあったが、内容は例年どおり充実していたと思う。9月16日(水曜日)の10:10に神奈川県京浜急行・日ノ出町駅に集合し、まずは横浜市立中央図書館に伺った。図書館近くはなんとなく雰囲気殺伐とした感じもあり、中に入るとAVコーナーにはホームレスかなあと思ってしまう男性がたくさんいて、そういった利用者の話も、質疑応答で率直に状況を教えていただけたことが記憶に残っている。そのあと神奈川県立図書館をさらっと見て、桜木町駅に出て、15時頃から福音館書店さんに伺った。少人数で松居直さんのお話を聞け、編集部を見せていただけたうえに、今年は新刊書を購入する時間もとれて、みな興奮冷めやらぬ状態で、宿泊先の水月ホテル鷗外荘へ。文教大学湘南図書館の中村保彦さんに加わっていただいて、楽しい夕食の時間を過ごした。翌9月17日(木曜日)は、午前中に国立国会図書館国際子ども図書館を、午後は国立国会図書館本館を見学した。相変わらず盛りだくさんであったが、学生ともども図書館のバックヤードを見て、職員の方たちのさまざまな本音もチラチラとうかがい、新たな発見をし、疲れながらも大変充実した2日となった。見学を受け入れていただきました、横浜市立中央図書館、福音館書店、国立国会図書館国際子ども図書館、同図書館本館の皆さま、お忙しい中での見学の受け入れ、本当にありがとうございました。

(文責・中村百合子)